

「町長の使命」

～差し迫った決断～

ここは沿岸から数キロのところにある小さな町の公民館。
公民館には、地域の人々の催し物を開くためのグラウンドがついています。
あなたはこの町の町長で、日々地域の人々のために仕事をしています。

ある日の午後。今まで経験したことのない大きな地震が町を襲いました。
公民館の中も、ぐちゃぐちゃです。

地震から 20 分が経ち、避難所に指定されている公民館には
地域の人たち約 100 名が避難をしてきました。

ちょうど隣に保育園と老人ホームがあり、
小さな子どもと高齢者の方が半分を占めています。

グラウンドには、集まった住民が並んで待機しています。
しかし、全員が集まっているわけではありません。
特に技術を学ぶために公民館から徒歩 15 分の工場で
働いている外国人実習生 15 名は、言葉の問題から
避難ができていないようです。

そんな中、地域住民が言いました。
「もしかしたら津波がくるかもしれない。進入禁止の裏山に避難した方がいい。」

また別の住民が言いました。
「いいや、ここに留まるべきだ。裏山は道が整備されているわけではない。まして、地震もあって崩れている可能性もあり、危険だ。大人は大丈夫かもしれないが、保育園の子どもたちや、おじいちゃん、おばあちゃんは危ない。ここに留まるべきだ。」

「しかし、万が一津波がきたら危ない。裏山の頂上にいけば助かるかもしれない。」

「いいや、この地域まで津波が来たことはない。
下手に動く方が危ない。それに、まだここまで避難できていない地域のかたもいる。
そういう人たちはどうするのだ？同じ地域に住む人を見捨てるのか？」

決断は町長であるあなたに委ねられました。
マニュアルには、「グラウンドに避難」とだけ書いてあります。
一体どうすればよいのでしょうか。

ワーク1 与えられた立場から、立場にあった選択を話し合ってください。

立場 ()

ワーク2 各グループの発表を聞き、気付いたこと、感じたこと、考えたことがあればメモをしよう。

ワーク3 あなた自身が実際にこの町の町長だったらどんな判断をしたと思いますか。

ワーク4 (授業中の指示を聞こう)

①

②

ワーク5 (授業中の指示を聞こう)

年 組 番 名前